

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を誰でも閲覧できる所に掛けてある。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員が理念を頭に入れ実現に向けて取り込んでいる。ミーティング時に理念を確認し合う事もある。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入所時に理解を得る。地域の人には運営推進会議時説明理解を得る。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	自治会に入会し地域の行事等に参加している。近隣の方が季節の野菜や果物を持ってきてくださる。地域の方の散歩コースになっているのでご挨拶し世間話等する。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や子供会の夏祭り、廃品回収、福祉会の行事に参加している		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	一人暮らしの高齢者が夜間等困りごとがあれば24時間電話は可能なので利用してほしい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月一回のミーティングや日頃の仕事の中で改善を図っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時行事(たなばた飾り、非難訓練)に参加あいていただき意見を聞いたりしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の行事予定や利用者の個人の困り事など相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族の関わりが困難な利用者は地域権利擁護事業の活用をしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や高齢者虐待について、虐待の法律や事例集を通して学習し日頃の対応や声かけを注意しあっている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の決心をされるまでホームに何度でも来て頂き不安、疑問、理念を説明し理解・納得される様に支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用の意見や不満は時々職員が横に寄り添い聞く様になっている。内容によっては主任、管理者へ知らせる。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来所時、時間の許す限り近況報告をするよう心かけている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今回外部評価を受けるにあたり、家族に同意書と調査の文章をお願いしましたら後日封書を持って来られ印鑑を押さなければならぬようなものは出せませんと言われました。妻が入所中で御主人も年をとられたのでしょうか毎年お願いしている事で説明し娘さんに聴かれたら分かると思いますと話す。次の来所持、昨年は娘が書いたとの事		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回のミーティング時職員の意見や提案を聞き話し合い出来る事は反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	運営者、管理者は緊急時や不安な事があれば24時間連絡可能な状態にしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	9月～10月に管理者の移動があり利用者へ不安を感じさせてしまいました。		今後こんな事態がおきない様にしていく。(現在は落ち着いています。)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員募集時、性別や年齢は問わず面接を行い福祉の仕事		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権は尊重しながら支援をしている。		
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士・介護支援専門員の資格取得など勤める。		
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近、近くのグループホームの利用者、職員の方をお招きし、ボランティアの方によるフラダンス、歌、踊りを楽しみました。今後も交流を続けたいと思います。		
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の悩みや相談にのり処遇問題など話し合う。		
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	主任をつくり管理者や運営者に伝えにくい事等、相談したりできる体制にしました。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安や求められる事に傾聴し、家族として安心して暮らせる場所である事を理解していただける様にしています。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設からの入所と自宅からの入所では家族の思いに違いがあるようです。本人や家族に何度でも訪問していただき、ホームからも合いにいけます。忙しい家族からの話はなかなか一度では聴き取れませんので面会時間に決まりがない事を告げ細かく面会にきてほしいと話します。急がずゆっくり本人が暮らせる場所づくりをする努力をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	それまでの関係者も含め検討しています。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の不安を少しでも解消してあげられたらいいなと思い、こちらから出向いて顔を覚えていただきどんな所なのか話をしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	視線を同じにし本人になにかをしようとする時、声かけをし納得していただき行動する。昔の歌など教えてもらう。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が孫を連れてこられたり、成人式の姿を見せにこられたりされますみんなで喜び合ったりします。家族がお世話になっているからと思う気持ちにならない様心がけています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いるんな家族のスタイルがあるので難しいのですがホームの行事への参加への呼びかけをし関係が疎遠にならないよう支援しています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住所のある地域から敬老会への誘いを受けた時は本人や家族に確認し参加している。久しぶりの再開に涙喜んでくださる人もいます。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	1人ひとりの生活観を思うと孤独が好きなのも難しいけれど、ホールで椅子から立ち上がろうとする人がいれば手をかしたり、マフラーやひざ掛けを一緒にかけたりされる光景もあり見守っています。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後継続的な関わりを必要とされた利用者、家族の例はありませんが必要とされれば断ち切らないつきあいをしていきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小さな団体生活のなかでも本人の暮らし方の希望や意向は把握しながら希望を取り入れるように努力している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人本位が体に良くないと判断した時は本人を説得し実行した事がある。(自室にテレビを置く事で閉じこもりになり、昼間テレビをつけたまま寝ている事が多く夜間眠れない状態になりトイレの回数が多く体重を増えている。)		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員とよく話し合い計画倒れにならないよう介護計画を立てています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状悪化で入院されると退院時は入院前とは身体状況が大きく変わりそれまでの計画では生活が出来ない時など介護保険の認定の変更やプランの見直しをする。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日々の記録により申し送りや情報を共有し身体、精神状態の変化に気づき介護計画の見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	立地条件に恵まれており、外気浴や屋外での食事を楽しんだりする。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	誕生会に楽器演奏やフラダンス、踊り等ボランティアをお願いする事がある。非難訓練、救急法は消防署員にきてもらい入居者、職員共実習をしました。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	エアーマツ等必要に応じレンタル業者に相談したり、市の社会福祉協議会と利用者の事で相談している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市の社会福祉協議会に相談し権利擁護を利用している。(2名)		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得のもとで定期的な往診や受診を支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	身体、精神状況を定期的に受診し医師と相談しながら支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在はありません。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病状により医師により早期の退院を伝えるのは難しい。退院が決まれば医師・家族・担当者・ソーシャルワーカーと今後の生活について話し合いをし受け入れの体制を整えている。入院中も医師や看護師と情報交換はしている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の方の状態が悪く医師に相談するも救急車で病院に行きなさいと指示がありました。その前に三重県に住む家族に連絡すると病院に行っても治療法がないと言われていた。駆けつけるのでそのまま見守っていてほしいと言われていた。8時間後に到着され、夫婦でホームに泊まりこまれ看病された。体力を取り戻され現在元気です。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記の方はなにかあっても病院の搬送はしないで欲しいと希望された。文書にて意思をいただきました。今年5月にもホームにて家族に看取られ静かに逝かれました。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院入院から老健へ行かれた方がいましたが家族が医師の居るところにと決められました。		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の自室へ入る時は、本人に声掛けし入室する。自室におられる時はノックする。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	粉望や思いを表現できない方もいますが、同じ目線で話してみます。ウンウンとしか言われなくても納得されたと感じます。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が重度化していますが食事だけは全員自力でされています。スタイルはそれぞれです時間を要する方もいますが最後まで自分でさせていただきます。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝はパジャマから普段着に着替えます。好みの服を選ばれます。時にはパジャマの上に普段着を着られる事もあります。朝食が終わった頃着替えを促します。お化粧品きちんとされる方もいます。あなたもお化粧くらいしなさいと教えられています。理・美容は認知や身体状況に合わせ本人の希望を支援します。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等出来ることは一緒にする。後かたづけも本人の能力に応じされる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは統一されているけれど飲み込みの悪い方、誤嚥のある方は固いものを避け柔らかくする。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の訴えがなく座位のとれる方は時間をみながらトイレ誘導する。タイミング良く排尿・排便がある事もある。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日と時間を決め支援している。決められた日に体調が悪く入浴出来なかったり、排泄の失敗があったりすると状況に合わせて入浴する。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気に合わせて布団干しをまめにする。太陽の臭いが気持ちいい。休即時落ち着かない時は話をしたり、手や足を摩り落着かせる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事の好きな方はいつも畑にいます。天気次第では他の方も外気欲をかねて畑をみに行く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さや執着はどなたもあると思いますが管理が出来ないと周りに迷惑をかける事になりますので出来るだけ本人が所持する事は避けています。本人がどうしても所持したいと言われる2名は家族と話し合い小額にさせていただきました。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の老人会からの誘いや彼岸のお寺参りなど個別の対応をしています。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一昨年前、利用者、職員、家族と一泊温泉旅行に行きました。現在精神、身体共に重度化の方がいて思い立つのに迷っています。	○	元気な方だけでも連れて行っていいものでしょうか。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	アメリカ生まれのアメリカ育ちの方がいます。時々アメリカへ手紙を出されます。きちんと届いているのでしょ返事やプレゼントがきます。携帯電話を持たれている方もいます。家族から電話がかかると本人にかかります。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者ないし職員も必ず挨拶をし、お茶やコーヒーでおもてなしをします。居心地よく過ごせる場所(自室・ロビー)本人と来訪者に選んでいただきます。面会時間は決めていません。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や高齢者虐待について職員と一緒に勉強をしています。本人の生命に関わる事、それしか方法がないのか家族を含め話し合いを重ね家族に書面にて説明、同意を得る。観察をし必要がなくなれば解除する。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在利用者の方は落ち着かれていて夜間以外鍵をかける状況にありません。居室には鍵はなく、むしろ内側から杖でツツバリをされ困る事があります。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	トイレへ行かれ時間がかかる時はドアの外から異常がないか確認する。ロビーに長時間姿が見えないときも自室へ行き確認をする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は全員分鍵のかかる戸棚に保管し夜勤者が次の日の分けをする。爪切や耳掻きは自分で所持せざる方には持たせています。縫い物の針は必要時借りてきてもらい、すんだら針の本数を確認する。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	専門的な知識がある程度必要と思われるので勉強会(消防署員による救急法)をする。個別の状態を把握しロミ食など提供している。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	おおむねの職員は、心マッサージやAEDの使い方の講習を受けました。		2年くらい前の事ですので近い内に講習を予定しています。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の中で地域へ協力をお願いしています。夜間の火災時は近隣の方に夜勤者1人では非難も難しいので非難・通報・消化のお願いをしています。8月に防火探知機・自火報通報装置を設置しました。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	転倒、突然死を踏まえ家族とよく話し込んでいますが、少しの抑圧感は本人としては感じられているのではないのでしょうか。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化がみられた時はまずかかりつけ医と連絡をとりながら対応する。今までははスムーズに行き大事にはいたっていない。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋を見分け易いようにしている。症状の変化に注意し報告や記録をする。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜類、水分補給を日頃から多く摂るよう心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口がいを促しています。皆さん習慣になってきたようです。		重度化している方の口腔ケアの方法を考えています。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は毎回記録に残す。誤燕のある方や噛めない方には個別のトロミ・キザミ食にて対応しています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は全員受けました。新型インフルエンザもありますので来訪者にわかるように文書(マニュアル)にしています。マスク・消毒を玄関に設置し使用していただきます。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員は定期的の大腸菌検査を受ける。まな板は天日干しを心がける。食材は毎日買い物に行き新鮮な物を使う。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家と同じ様に花や植木をおき整理整頓をし親しみ易いようにしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地条件がよく居間や自室から十分季節を感じられる。自室は全室日当たりがよく暖かい日差しが一日中差し込んでくる。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には一人になれる場所はありません。気の合う同士で語り合ったり、笑ったり、たまには喧嘩もあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた物をもってこられ思い思いの部屋作りをされている。ジュウタンやカーベツは足を引っ掛け転倒の恐れがあるのでお断りしています。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度調節は利用者にごまめに尋ねながら配慮していますが全員に丁度いい事はないと思います。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えて手すりは沢山取り付けてあります。歩行に杖や支援が必要な方でも片方の手は手すりを使い自立へ向けTの工夫をしています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知の重度の方が多いけれど、混乱や失敗はあまりありません。トイレが自立の方で、たまにトイレや下着を汚して落ち込まれる事がありますが職員上手にサポートしています。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに植木を置き、水(米のとぎ汁)で育てている。外周リは広いスペースがあり花見、焼肉、天気によって昼食を外で楽しむ事がある。利用者は外で食べるとおいしいネと言われる。	ko	

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

立地条件や環境に恵まれており、季節や天気次第では外に出れなくても居室・ロビーから外が見渡せ会話のきっかけにしたり季節感を味わう事が出来る。天気のよい日は、ホームの庭（駐車場スペース）で外気浴や昼食を楽しんだりしています。